

第 60 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬 (株)	ミカムロ/ミカルデイス	中外製薬 (株)	アクテムラ
第一三共 (株)	ネキシウム	大日本住友製薬 (株)	アバプロ
(株) ジェイ・エム・エス		興和 (株)	リバロ
大塚製薬 (株)	ムコスタ	大塚製薬工場 (株)	エルネオパ
塩野義製薬 (株)	オキシコンチン 他	シーメンス・ジャパン (株)	Biograph mMR
大鵬薬品工業 (株)	アロキシ	武田薬品工業 (株)	アジルバ
田辺三菱製薬 (株)	レミケード	(株) ツムラ	六君子湯
(株) ヤクルト本社	カンプト 他		

(ABC 順)

編集委員会

編集長：並 木 温

編集委員：金子弘真 佐地勉 杉山篤

周郷延雄 高橋寛 高橋啓

津熊久幸 瓜田純久 (ABC 順)

編集後記

本号は、鈴木啓悦教授の総説とともに、東邦大学医療センター大橋病院からの原著論文 2 編で構成されている。大橋病院の開設は 1964 年の東京オリンピックと同じであり、日本が戦後復興に成功し、高度経済成長が始まった時と重なる。そして、今年再び東京オリンピックの話題で盛り上がっている。2020 年夏季オリンピックにはトルコのイスタンブール、スペインのマドリッド、イタリアのローマ、アゼルバイジャンのバクー、カタールのドーハ、そして東京の 6 都市が立候補した。2012 年 5 月の国際オリンピック委員会 (IOC) 理事会の 1 次選考において、イスタンブール、マドリッド、東京の 3 都市が正式な候補都市として選出された。今年 9 月 7 日にプエノスアイレスで開かれる IOC 総会において、この中から開催都市が決まる予定である。東京で開催されることになれば、本学医療センターは医療面での重要な役割を果たすことになるであろう。

「良き医療人を育成する」という大森病院の理念のごとく、本学の若手医師はその多くが臨床に携わることを選択する。はじめに病棟や外来の業務を覚え、外科系であればさまざまな手技を習得し、また、医療人、社会人として、患者との接し方やメディカルスタッフとの協力関係を学ぶ。一方で、学術的研鑽を積む重要な時期でもあることに気づく若手はまだ少ないと感じる。キーワードは“Strike

while the iron is hot” (鉄は熱いうちに打て) である。若手が症例報告を執筆することは、臨床医として向上するための優れた手段の 1 つでもある。その症例を掘り下げ、引用文献から新たな知識を得て、先輩達からのアドバイスの信憑性 (?) を客観的に確かめることもできる。学会での症例発表のみにとどまらず、引き続き論文投稿につなげてもらいたい。その際に本誌を活用することが本学のためになることはいうまでもない。本誌に若手医師からの多数の症例報告が掲載されることを望む。

(周郷延雄)

東邦医学会雑誌 第 60 巻 第 4 号

平成 25 年 7 月 1 日発行

編集兼
発行人 並 木 温〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
東邦大学医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎